

イーハトーブ

関西岩手県人会報 20号

2012年9月5日発行

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-900
大阪駅前第1ビル9階 岩手県大阪事務所内
Tel & Fax 06-6344-5969
発行代表者 鎌田 龍児
編集代表者 松坂定徳

震災を風化させない活動を！ 東日本大震災 1 周年法要

家族を、友人を、家を、田畑を、職場を、すべてを飲み込み奪い去った大震災大津波から1年の3月11日、午後2時から、大阪難波の法善寺で、東日本大震災1周年法要が営まれました。県人会からは会長、副会長、役員、会員有志のほか、佐藤勝宮城県人会会長、箭内一福島県人会会長が参列、宮城県南三陸町で被災した家族の幼い女の子が献花、献灯したあと、参列者が次々と献花しました。求められて挨拶に立った私は、震災への想いと決意を申し上げました。震災に対する関心が、残念ながら急速に薄れて行っている中で、私たちは、少なくとも関西岩手県人会は、決して震災を忘れないこと、被災した故郷の人たちに寄り添い、決してひとりではない・・・というメッセージを、ずっと送り続けていくことをお誓い申し上げました。しめやかな読経が流れる中、焼香と献

灯が行われ、地震の起きた午後2時46分に、水掛け不動さんにお参りしていた人たちも一緒に全員が、犠牲者を悼み、一日も早い復興を願って黙とうを捧げました。家族を失いながらも助かった人の多くが、「なぜ自分だけが、助かったのか?」「なぜ家族を助けることが出来なかったのか?」と自分を責め、苦しんでいると聞きます。また、大震災のために体調を崩して亡くなったり、自殺したりした震災関連死が、6月現在、388人に上っています。私たちは、仮設住宅などで不自由な生活をしながら、孤独と立ち向かっている人たちに寄り添いながら、震災を風化させない活動を、県人会として続けて行かなければならないという思いをあらためて強くいたしました。なお、岩手から関西に避難してきている方の情報をお持ちの方は、事務局までお知らせ下さい。 鎌田龍児

東日本大震災に対する県人会の対処

事務局長 熊谷克己

悪夢の東日本大震災から早くも1年半が経過しようとしている。

我々、関西岩手県人会は、この間、故郷の被災者のため何が出来るかを問いながら義援金募集活動を展開してきたが、時間の経過と共に被災地の現場から離れている関西の人々の記憶から、あの惨状が消えつつあることは否めない。このことは、通常の募金金額の暫減傾向からもうかがえる。

募金による救援活動のほかに、ボランティア活動のほか、更に新たな救援の展開が必要とされるこの時に私達が行った震災被災者救援活動を振り返ってみたい。

1. 震災直後のころ

私達の会報「イーハトーブ」特集号(23年4月・5月発行)にも記載あるように、募金は先ず関西在住の岩手県人に対しお願いすることにしたが、県人会会員のみならず、登録されていない岩手県出身者からも申し出が会った他、

寺社等の団体や、町の喫茶店からも義援金が寄せられ、鎌田県人会会長を先頭に役員は多忙を極めた。

更に特筆すべきは、我々関西岩手県人会が宮城・福島の両県人会に呼びかけて、三県合同の街頭義援金活動を展開したことである。大阪市(梅田、難波、京橋)や神戸市(三宮と元町)の街頭募金は、多くの障害を排除して実現したものであり、その状況は忘れられないものであった。

老若男女を問わず多くの通行人が立ち止り、我々の募金の呼び掛けに応じて下さり募金と共に激励の言葉をいただいた事は枚挙にいとまがない。

全国的な連携「絆」が生まれてきた頃といえよう。

今回の活動では岩手県大阪事務所のご協力は言うに及ばず、上記の三県人会と初めて密接に打ち合わせの上、行動を共にした実績は、今後の様々なネットワークの構築に役立つであろうことは間違いないと確信している。

2. 半年経過の頃から

会員が自分の住む土地の各種団体に所属しているケースがあり、この人たちは県人会の組織に関係なく、しばしば募金活動を行い実績を挙げた事はありがたいことで

あった。一方、大阪市や神戸市の近郊の中都市からは、祭りの一環で県産品の販売と同時に義援金募集を行いたいの協力をいただきたいとの申し込みが数多く見られるようになり、万障繰り合わせて参加した。しかし、各地へ出かける役員の人数が限られているほか、その成果が期待通りの水準に達しないことが次第に多くなり、従来の義援金募集に限界が見えるようになったことである。



この間、一貫して支援の手を差し伸べてくれた団体として、水掛不動で有名な大阪難波の法善寺を挙げなければならない。

法善寺境内で募金活動 法善寺境内で募金活動に提供していただいているほか、折に触れて(1周年や盆の供養)義援金を岩手県(宮城・福島県にも同様)に届けて頂いている。

しかし、このような行為は、他の団体を含めて、今後、多くを期待することは難しい状況だ。

国又は県の救援体制がそれなりにスタートし、役者が変わってきたといえよう。

(注) 平成23年12月31日までに県人会が岩手県に送金した義援金の額は6,775,093円

3. これからの救援体制

県人会が提供できる応援の資金は会員の気持ちの積み重ねであり、金額は多くはなくても、知恵を出し合いながら救援活動を展開し、かつ、長期の展望で進める必要であることから、2012年から義援金を「いわての学び希望基金」として、被災児童の育英資金として毎年拠出することを県人会で決定している。

(注) 第1回の希望基金の額は540,000円。(24年2月送金)

終わりに、同郷人が震災で難渋しているこの時期に、救援の手を差し伸べなければ、県人会の存在価値が問われるということを肝に銘じて、今後の対処方針としたい。

以上

達増知事から県人会に礼状



拝啓

晩冬の候ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日ごろ岩手県政につきましては、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、岩手の学び希望基金

達増岩手県知事 に対して、温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

県といたしましては、「がんばろう！岩手」を宣言し、皆さまからいただいた励ましを糧に、県民みなで力を合わせ、希望に向かって復興に取り組んでまいりますので、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ここに、この度の御厚情に対しまして略儀ながら書中をもって御礼申し上げますとともに、皆様のより一層のご発展をお祈りいたします。

敬具

平成24年2月吉日

関西岩手県人会

会長 鎌田 龍児 様

岩手県知事 達増 拓也

京都県人会精力的に活動

京都岩手県人会は、震災から1年となる3月9日から

11日までの3日間、京都・四条河原町の高島屋百貨店前で義援金の募金活動を行った。全国から観光客が訪れる京都の中でも人通りの多い場所だけに、多くの人たちから



暖かい善意が寄せられた。中には「1日も早い復興を願っています」「大変でしょうが頑張ってください」と、わざわざ声をかけてくださる方もあり、募金に参加した会員の皆さんも感激していた。

編集部

鉄人と跳ねる鹿踊り

記事・写真 中野由貴

6月9・10日“東日本大震災からの復興と伝統文化の継承を願って”をテーマに大船渡市の仰山流笹崎鹿踊保存会(ぎょうざんりゅうささざきししおどりほぞんかい)による鹿踊りが大阪と神戸にやってくると聞いて出かけました。

仰山流笹崎鹿踊保存会では、東日本大震災の大津波で蔵が流され、8組の頭(かしら)も装束・道具類の一切を流したとのこと。継承も危ぶまれていたところ、国立民族学博物館の協力で頭に必要な16本の角が関西や長野など全国から集まり、それが今回の大阪の国立民族学博物館と神戸市長田区での「忘れない絆、絶やさない伝統」という2公演へとつながったそうです。

大阪公演では、震災と芸能に関するシンポジウムも開催され、笹崎鹿踊保存会会長の佐藤正志氏からは鹿踊り再生の話がありました。自分が元気なうちに手を打たないと、と佐藤氏自らで鹿角を加工し、そして地元の協力者の下に頭が完成した過程や、その頭を地元より先に関西でお披露目するのが今回の公演なのだという話は大変印象に残りました。

初日の国立民族学博物館は、小雨降る天候にもかかわらず450名定員の会場はほぼ満席。2日目の神戸市長田区の鉄人28号モニュメント広場は、晴天に恵まれ千人以上の人々が集まりました。

両日とも跳ねまわるのは、3.11以降の一切から立



ちあがってきた鹿たちです。先祖代々、大船渡市で継承されてきたこの鹿踊りは、数ある鹿踊りの中でもその動きの激しさで知られていると聞きます。特に2日目の神戸公演では、青空の下で鹿たちは、地面にしっかり足を踏みしめて、太鼓をたたき、唄声を360度響き渡らせ、関西にはない東北の土臭いリズムや空気をあたり一面まき散らしていました。

跳ね、跳びはねる鹿たちは、とてもかっこよかったです。装束や道具が無くなっても、それは失ったわけではない。だからこそまた生まれ変わり、蘇り、立ちあがって伝えられていくものがあります。その場所だからこそその強さ、願いや祈りが、またその土地の智慧になっていくのだらうと思います。鉄人28号のある広場界限は、阪神淡路大震災で被害の大きかった場所です。もともとあった町並みは一変して、ある意味生まれ変わった場所です。ふたつの被災地という理由はあれども、この場所で、そして鹿の角を通して岩手と関西・神戸がつながったこともきっかけに、ぜひ今後も岩手と関西との交流が色々な形で続いていきますように、と願っています。

唄い上げたあと、恒例の各県人会の出しもの競演に入った。過去2回、青森、秋田両県の芸達者に圧倒されていた当会は、まず、宮古出身の小川法子さんが、しぶいので、「沢内甚句」を披露、奥州市出身の佐藤俊三さん(90)が



小川法子さん

「お前を放さない」の演奏に乗って見事な踊りを披露した。佐藤さんは、60の手習いと謙遜するものの、日本舞踊や社交ダンスなどで積極的に活動していて、着物や傘など、小道具を持参しての踊りだったが、ぴんと伸びた背中や表情豊かな手の動きなど、とても90歳とは思えない見事な所作で、会場の大喝采を浴びた。会を重ねる毎に県を越えた触れ合いが生まれ、ビールのグラスを合わせての乾杯が、会場のあちこちで見られた。

受付に義援金の募金箱を置かせていただきましたが、



何と41,012円 「お前を放さない」佐藤俊三さんの温かな浄財をお寄せいただきましたので、震災遺児の育英資金「いわて学びの希望基金」に送らせていただきます。

来年はまた、岩手が幹事です。大いに盛り上げましょう！

編集部



大船渡仰山流笹崎鹿踊 神戸で復活！

賑やかに盛り上がる！

三県合同納涼ビアパーティー

夏恒例の「第3回三県合同納涼ビアパーティー」が、7月29日午後4時から、大阪北区の「スーパードライ梅田」で行われた。猛暑日にも関わらず、これまで最高の128人、岩手からは46人が参加した。初めに3県を代表して、幹事の近畿秋田県人会・島山圭司会長が、「岩手県人会からの働き掛けで始まったこのビア・パーティーも、3回目を迎え、このように沢山の皆さんが集まったことは、大変うれしい。この機会に県の枠を越えて、お互いにさらに交流を深めていただきたい」と挨拶した。続いて3県合同事務所の所長、青森県の川嶋尚考所長の発声で乾杯、会場は一気に盛り上がった。秋田県人会の特別ゲスト、南とおるさんが、故郷への想いを



大槌町の中高生 大阪で躍動！

岩手県立大槌高校と豊中市の府立桜塚高校の野球部の交流試合が、8月7日、豊中ローズ球場で行われました。これは震災直後に、豊中市が緊急消防援助隊を派遣したのを契機に始まった両市の交流の中で、今年8月、豊中市が企画運営したボランティアバスで、桜塚高校が大槌高校を訪問、豊中市の招待で、高校野球発祥の地豊中での交流試合が実現したもの。浅利敬一郎豊中市長の始球式で始まった試合は、最終回にドラマが待ち受けていた。



大槌高校野球部ナイン

6対0とリードされて迎えた9回裏、大槌は打線がつながり、2塁打や四球などを絡めて一挙5点を上げ、1点差まで詰め寄ったが、もう一歩及ばずゲームセット。詰めかけた約1200人の観客からは拍手と「大槌コール」が湧き上がりました。

大槌高校は、避難所になったほか、災害救援活動の自衛隊の基地となり、練習は車両の間のわずかなスペースでしか出来ない状態でしたが、参加した1・2年生は真剣な表情で白球を追い、明るく快活な笑顔が、とても爽やかでした。両校は、校章が「桜」であることから、これからも交流を続けて行くことを誓い合う「さくら協定」を締結した。

一方、8月8日、河内長野市のラブリールホールでは、大槌中学校吹奏楽部が見事な演奏を披露しました。これは、津波で楽器が流され、部活動もままならないことを聞いた河内長野ロータリークラブや市民が、募金をして、ピッコロやホルン、サクソなどの楽器をプレゼント、生徒たちにもようやく笑顔が見られるようになり、「大槌町を支援する河内長野市民の会」（会長：石倉保彦氏）の招きを受けて来阪し、河内長野市の中高一との「きずなコンサート2012 in かわちながの」に出演したものの。

定員130

0人の会場は、市民らでほぼ満員となり、和太鼓やダンス、ハンドベルなどの演奏に続いて、大槌中学校吹奏楽部の36人が登場、

感動を呼んだ大槌中吹奏学部

日頃の練習の成果を披露した。同校は地区大会で金賞をとる腕前で、吹奏楽しいメリハリの利いた素晴らしい演奏を披露、河内長野市から送られたピカピカ輝く真新しい楽器を紹介すると、会場は大きな拍手に包まれました。何よりも、生徒たちの明るい笑顔に元気もらった2日間でした。

編集部



吹奏楽部部員のみなさんと



法善寺で

震災関連法要に参加

7月15日18時から大阪難波の法善寺で東日本大震災犠牲者追悼法要・灯籠流しが行われ、私達県人会は宮城・福島両県人会と共に参加いたしました。名刹法善寺の境内で読経による追悼に続き、灯籠流しの会場となる道頓堀まで移動し、そこでは日曜日の夕方でもあり多くの一般観光客が見守る中で観光船を一時ストップさせて灯籠流しが行われました。この後、音楽活動をしている二つのグループ（アルパの楽器演奏と女性ボーカルによる独唱）がとんぼりに、響きました。

最後に法善寺様より三県の県人会に対して、義援金（目録で）が贈られました。

なお、当日は地元商店会のご協力により、道頓堀川の遊歩道で、三県の名産品の販売も行われました。

ご存知のように、法善寺様からは震災後、今日に至るまで何度も義援金をいただき、また、境内を利用した募金活動を許可いただくなど、岩手県に対して多大のご協力をいただいております。

熊谷記

（当日の出席者は事務局 熊谷と加藤の2名）

以上

新田南夏祭りで県産品販売 豊中

7月15日日曜日午後3時から、豊中市立新田南小学校を会場に、「千の里 新田南夏祭り」が行われました。校庭の中央には櫓が立てられ、それを囲むように食べ物やグッズのテントが並び、浴衣を着た子どもたちや、豊中のみならず、周辺

の各市から訪れた4000人の家族連れらでにぎわった。学校正門の入場口には、東日本大震災復興支援テントが特設され、



関西岩手県人会では昨年に続いて今年も、県産品の即売を行いました。南部せんべいやイカせんべい、クルマかりんなどのお菓子類や盛岡冷麺、わんこそば、さんまの生姜煮など12品目をテーブルに並べましたが、午後8時には完売となりました。用意した「復興支援募金箱」にも11,274円の善意が寄せられました。売り上げ金と一緒に「いわて学びの希望基金」に寄託をさせていただきます。ご協力をいただいた皆さんに感謝申し上げます。

鎌田記

お手伝いいただいた方々（敬称略） 藤井勝 濱本昌範 井上悠美子 松浦勝美

盛岡大附 1回戦突破ならず

第94回全国高校野球大会第2日、岩手県代表の盛岡大付属高校は、8月9日第2試合で、立正大湊南(島根)と対戦、延長12回、4対5で敗れ、宿願の甲子園1勝はなりませんでした。盛岡大附は、相手を上回る13安打を放ちながら、繋がりがなく、得点に結びつかずに、惜敗しました。次の雄飛を期待したいと思います。暑い中、応援に駆け付けて下さいました会員の皆様ありがとうございました。 編集部



声援を送る県人会応援団

編集後記

震災から1年5か月が過ぎ、震災関連のイベントの対応やホームページでの広報に追われる一方、印刷所の閉鎖などもあり、会報の発行が遅れた。会報でしか県人会の動きを知ることが出来ない方々のためにも、猛暑を乗り越り鋭意努力する所存。(龍)